

令和5年度 第1回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和5年8月16日（水） 午後1時30分～午後2時03分
- 2 開催場所 福祉センター 2階大会議室
- 3 出席者 町 長 星野 淨 晋
教 育 長 鈴木 秀 輝
教 育 委 員 高橋 浩
教 育 委 員 眞野 有 吏
教 育 委 員 影山 やえみ
教 育 委 員 長島 宗 紀
- 4 事務局 事務局 長 朝倉 通 彰
学校教育係長 山本 みち代
社会教育係主幹 松田 恵 一
社会教育係長 神谷 仁 志
- 5 傍聴者 3人
- 6 議 事
(1) 小学校の統廃合について
(2) その他

事務局長：それでは定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第1回西伊豆町総合教育会議を開催いたします。傍聴人の方々をお願いいたします。会議中は静粛に傍聴していただき、写真撮影、録画録音等を行わないように御協力をお願いします。また、携帯電話はマナーモードにさせていただくようお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、町長から御挨拶を申し上げます。

町 長：みなさんこんにちは。本日はお盆の真っ只中で大変御多用のところお集まりいただき本当にありがとうございます。皆さん御承知のようにですね、高校の在り方検討委員会というようなものが、県の主催で行われておりまして、日々子供たちの教育環境とか、今変わろうとしております。この西伊豆町におきましては、今ワークショップを行って、いろいろ御議論をいただいているところでございますけれども、ホテルや旅館などから声が聞こえてきますのは、従業員の方が足りていないと。外から人に入ってきていただきたいとしても、やはり皆さん教育の環境など大変気になされているというようなところもございますので、やはり子供たちの生活環境が守られないとこちらに移住してくる方も、なかなか移住に踏み込めないのかなというふうに思っております。全国的に人口減少の状態でございます。従業員確保につきましては、東京を中心に田舎から都市部に人を寄せ集めるということは引き続き行われておりますので、やはり魅力ある町にしないと、ホテル、観光のみならず、今後、病院であったりとか、福祉施設の人材確保も難しくなるのかなというふうに思っておりますので、子供たちの教育関係につきま

しては引き続き、いいものを提供できるように努力していきたいというふうに思っております。来年度から田子小と賀茂小が一緒になりまして賀茂小になります。小学校の統廃合につきましてはこの後、事務局の方から説明があらうかというふうに思いますけども、今大変、賀茂小の雨漏りがですね、ひどくて、今、夏休みの期間、急ピッチで今行っていただいております。統合しますとお金はかからないという持論を申される方はいらっしゃいますけども、実際この雨漏り対策で数千万円の費用をかけて改修にかかっているところでございますので、何をやったとしてもお金がかかるという御認識を委員の皆様にも、ぜひ認識していただきたいというふうに思っています。教育施設につきましてはもう、全ての施設が三、四十年経過しておりますので、いずれ大規模改修をしなければいけないという状況になっておりますので、そういったものを含めてですね、これから子供たちが、教育を受ける環境の整備、また中学校の部活の地域移行だとかいろいろございますけれども、まず今日につきましては小学校の統廃合について、主に御議論いただきたいなというふうに思っておりますので、闊達な御意見いただければと思います。よろしく願います。

事務局長：ありがとうございます。それでは引き続き議事に入りますが、議事の進行は座長であります町長にお願いいたします。よろしく願います。

町長：はい。それでは議事の3、小学校の統廃合について、事務局の方から説明をお願いします。

教育長：それでは資料の方で、9月1日に回覧する予定の学校等再編だより、こちらの方を見ながら、現在の小学校の統廃合の準備の様子についてと今後の計画についてを説明させていただきます。5月にですね、2校小学校統合準備委員会を立ち上げております。各校の校長と事務局で統廃合についての基本方針について話し合っております。その中で今後の進め方についての共通理解をしていったところがあります。そして、6月にですね、賀茂小と田子小学校の職員の合同研修会を行いまして、基本方針を事務局で教職員の皆さんに説明をし、その後、両校の担当者同士で具体的な話合いを行っております。学習や生活のきまり、クラブ活動についてなどの話合いがされました。それと8月になりまして、田子小学校で2回目の合同研修会を行い、賀茂小で必要な備品や道具を確認する作業を行いました。賀茂小の方で今使っているもの、田子小で使っているもの、両方を先生たちに見てもらってですね、どちらのものを使うといいかその辺も考えながら、田子から賀茂へと持っていくものなどを確認してもらったところです。そこに写真がありますけど、それがその時の作業風景ですね。今後も各学校で時間を見つけて細かな打合せを行って準備を進めていくようになります。今後の計画についてですけども、大まかな予定をそこに5点ほど挙げてあります。一つは、賀茂小学校の見学会を今年の10月の中頃、令和6年度入学予定の子供とその保護者、そして、田子小の1年生から5年生とその保護者を対象にして、実際に現賀茂小学校の校舎内を見学する機会を設けます。二つ目は、新賀茂小学校となる保護者説明会を今年の11月中旬頃予定しております。田子小と賀茂小入学予定の保護者を対象に、令和6年度賀茂小の教育基本方針、学校のきまり、さらには通学手段などについて

てを説明する予定です。三つ目は、田子小学校の閉校式ですけども、来年の3月19日に田子小学校の卒業式があります。その田子小学校の卒業式終了後ですね、田子小学校を閉じる式典を行います。四つ目は、田子小と賀茂小学校統合のための引っ越しの作業を予定しています。3月の下旬になるかと思います。田子小から賀茂小へ授業に必要な物品や道具等を運び込みます。これについては、教育委員会職員、それと小学校の先生方、それとあと中学の先生方にも手伝ってもらえるようになろうかと思います。それと5番目。西伊豆町立賀茂小学校の開校式を、令和6年4月の月上旬、賀茂小学校入学式が実施される前に、新たな賀茂小学校が誕生したことを皆さんにお知らせする式典を行います。以上、大まかな予定になっております。これについてはまた9月1日の学校再編だよりでこれをこのまま配布しますけども。今の状況、それとこれからの方向についてですね。何か御質問とか御意見ありましたらお願いしたいと思いますけども。

町 長：はい。ありがとうございます。それでは今教育長の方から小学校の統廃合につきまして、学校等再編だよりを参考に今皆さんにお示しをいただきましたけども、御意見、御質問等ございますでしょうか。

高橋委員：よろしいですか。

町 長：はいどうぞ。

高橋委員：賀茂小の校舎が大分老朽化して、雨漏りとか、子供たちが増えるので、安心安全という基本的なものを考えたときに、雨漏りで何千万とか。新しく備品とか、今のあるものを調達して使うんでしょけども、安心安全な部分にやっぱりこれからもお金を経費をかけていただきたいと思うんですけどもね。いつも思うんですけど、ふるさと納税基金が半分として5億ですよ。町長のおかげで給食費ただにさせていただいたりとかあるんですけど、もう少し大きく経費をかけて、設備投資をして、賀茂小学校にですね。新賀茂小学校に設備投資をしていただくと親たちも安心するんじゃないかなと思うんです。すみません。意見です。

町 長：はい。ほかにございますか。

教 育 長：今の設備投資の方ですけども、中学の方のバス停も兼ねてですけど、今、バスがロータリーで巡回しているところ。そこに小学生たちも使えるようにバス停を作る予定でおります。これから議会へ補正予算の提出することになります。

町 長：ほかはよろしいですか。この件につきましては。では特段ないようございしますので、(2)のその他につきまして、これは教育長の方から説明されますか。

教 育 長：はい。それでは、今進行中のワークショップのことについて、山本係長の方から、説明いたします。

学校教育係長：ではワークショップについて少し説明させていただきます。こちらは6月から、認定こども園の在り方を考えるワークショップを開催しております。このワークショップにつきましては、5月に参加者の募集をさせていただき、参加者の申込みが全部で17名ございました。この皆様と一緒にワークショップを現在、月1回程度ですね、開催しております。第1回は6月の24日に開催しまして、ファシリテーターと申しまして、進行役ですね、いろいろなこの話を進めていただく方

に、静岡大学教育学部の准教授の島田先生をお願いして、ファシリテーターとして進行をお願いしております。第1回につきましては、ワークショップとはどういうものかというところの皆さんと共通認識ということで、ワークショップとはどういったものかという説明から入っていただきまして、例えばファシリテーターの役割とかですね。そういったものを説明いただきました。ワークと言いまして皆さんで意見を出し合う場として、西伊豆町の子供が小学校までにどんな子供になってほしいかなということをお皆さんで、意見を交換していただきました。中にはいろいろと挨拶ができる子がいいとかですね、老人ともっと触れあえる方がいいといった具体的な意見なども出していただいたような形になります。続いて7月の22日の第2回ではですね、実際に認定こども園の園長に参加していただき、普通の保育環境と非常時の保育環境の現状について説明をしていただきました。その中で認定こども園の避難訓練の様子などの動画も流しながら、今こういった状況で困っていますというようなことを説明していただいて、参加者の皆さんには、認定こども園の現状について、このままでいいと思うこと。とかですね、不安・懸念だと思ふこと。などを意見出ししていただきながら、参加者の皆さん班に分かれながら意見交換をしていただいたという形になっています。次回は、第3回を今週土曜日の19日に中央公民館で午前10時から開始の予定です。次回第3回ではですね、具体的に認定こども園を建てるのにふさわしい場所であるとか、条件など、具体的な条件をお皆さんで意見交換していただく予定となっております。ワークショップにつきましては以上になります。

町長：はい。ありがとうございます。それでは、ここまで2回行われているワークショップの説明がありましたけども、それらにつきまして質問のある方は、挙手をお願いします。はいどうぞ。

長島委員：ここまで参加していただいた方々の感じといいますか、御意見とかを聞いてるかと思ふんですけど。どういう感じ。初めてのことなので、分かりづらいところもあるかと思ふんですけど、参加者の方々の反応ってのはどうでしょうか。

事務局長：最初はやっぱり1回目の時はですね、ワークショップというものが不慣れというところもあろうかと思ふますので、なかなかちょっと戸惑ったところもありますけども、参加者の皆さん、積極的に意見を出していただきまして、終わってみたら立派なものが出来上がった状況でした。2回目についてもやはり1回目の進め方もありましたので、比較的意見出しについてはスムーズに行われているのかなという印象を受けました。

町長：はい。ほかにございますか。よろしいですか。ではワークショップの意見のほかに、その他、何か総合教育会議で皆さんの方から、申し上げたいことがありましたら是非お願いしたいと思ふますけど。ありがとうございます。では、特に無いようございますので、私の方から一つだけ、ちょっと皆さんに御意見を伺いたいことがございまして、既に新聞で御覧になってる方がいらっしゃるかというふうに思ふますけれども、過日行われました、県主催の高校の在り方の検討委員会で、今年度内にランドデザインを作りたいということをお県の方が申し上げております。その中身としては、松崎高校の存続も含めてサテライト制の導入に一

本化されるのではなかろうかというような流れがありましたので、サテライト制のみならず、うちの町と松崎町では、組合制ということについても考える余地をいただけないかという発言をさせていただいたんですけれども、そもそもそのサテライト制とかですね、もし教育委員の皆さんが、もう少し中身を教えてくれということであれば、私の方から説明をしたいなど。そういったものについての、御意見ございましたら、今おっしゃっていただければですね、そういった会議の時に、町としてはという意見として申し上げることもできるのかなあというふうに思いますので、もし何か御意見がありましたらお願いできればと思いますけど。

高橋委員：ごめんなさい。私、新聞読まなかったんで、サテライト制とか、どういう現状の中でどういうふうにしたとか、あんまりよくわかんないんですけど。現状的にはどういう問題が出てるんでしょうか。

町長：現状はですね。まあ変な話、今、子供の数が、400人いたとすると10年後は200人とかというようなレベルなわけですよ。そうすると、今、高校は3校プラス1分校ありますけれども、もしかすると1校になる可能性がゼロではない。

高橋委員：10年後にはですね。

町長：そうですね。なので、それを踏まえて県の方は、高校の在り方ということについて、今から手をつけているというのが現状です。南校についてはですね、既に定員割が、多分今年が2年目なので、来年はもしかすると募集がかからないかもしれない。まだ、これ県は決定していませんのでかもしれないでしか言えませんけれども、そういう状況です。松崎高校も、本当は2クラスのところを無理やり三つに分けて3クラス。ですから実質の定員の80を割っている状況ですね。これがそのまま行くと、1クラスとかになると、そもそも分校扱いになるのか、なくなるのかっていう状況に今なっております。稲取についても、東伊豆の方は電車がありますので、行こうと思えば伊東でも行けるわけです。ですから稲取高校の数も減ってます。そうすると下田賀茂郡下で、もしかすると、下田高校しか存続しない可能性もゼロではないというのが実際の現状です。ただ、西伊豆、松崎からバスで通ってですね、全員下田に行けっていうことは酷なので、私たちは何とか学び舎としての下田高校。名称はどうか分かりませんが、これは残さざるを得ないだろうということで、最悪サテライト制というのは有りかなというふうに思っているんですけども。これとて、10年後はよくても15年後はどうなるか分からないので、組合立ってのもあるんじゃないですかっていう話はしてるんですが、現状としてはそんな感じです。もし、松崎高校の学び舎がなくなって、下高に行くか、修善寺の伊豆総合に行くか、韮山に行くかっていう選択肢しかなくなってしまった場合、多分、私たちの親はいなくなります。子供通えませんから。ですから、どうにかしたいなっていうのが今の現状です。ただ、県はですよ、あくまでも国の法律の縛りできますんで、何人集まらなければ、これは高校として存続が出来ないというような形で言ってくるのは今の状況でございますので。ただ若い人はですね、変な話、移動は可能なんです。順応出来ますから。ただお年寄りに一緒に引っ越しますかって聞くと、いや地元に残るからいいって言う

んですけど、若い方がいないとお年寄りの面倒見る人いないですよ。なので、私たちはそれを危惧してるので、何とか子供たちのためについていうふうにいるいろいろ考えてるんですけども、なかなかそうじゃない意見を言う方もいらっしゃいますので、とても頭の痛いところですね。ですから先ほど高橋さんおっしゃっていただいたように、子供たちのためにもう少しお金をかけて、安心安全とかですね、多少不都合であっても、残すものは残すっていうことは私も賛同したいんですけども、義務教育課程であれば、私たちがどうにかできるんですが、高校になるとあくまでも所管が県なので。ただ、現状としては今そういうところに追いやられていると。町内に魅力ある学校があって子供が増えればそんなこともないんだろうとは思いますが。子供が減るからっていうことありきで議論されてると結局こういうことになっちゃうんですよ。まあなかなか、今私が言うてどうこうっていうのはあれかもしれませんので、また、もしお気づきの点がありましたら、教育長を通じてでも、事務局を通じてでも、直接私にでも構いませんので御意見をいただければ、県の方にもこういった御意見がございますということは、しっかりお伝えをさせていただければと思いますので、よろしく願います。

長島委員：よろしいですか。

町長：はいどうぞ。

長島委員：土肥なんかを見ておりますと、やはりね、ちょっと形が違うかもしれませんが、学校がないとか、あったとしても少ないとかってやっぱり人は集まってこないと思います。やはり、距離っていうのは確かに距離がありますので、いくら若いからといっても、距離っていうのは大変なものなんで、せめて西伊豆に一つ、残してもらいたいなど。確かにその人数の縛りはあるでしょうけども。やはりなくなってしまおうとそれきりですので、できるだけ努力をしてもらいたいというのが意見です。

町長：ありがとうございます。

高橋委員：俗に言う特色ある学校づくりとか。なんか今の松崎高校ってそういう魅力がないのかなあ。進学率が悪いとかね。半分が就職しちゃうだとか。部活も子供が少ないから今一だとか、南高校だって農業であそこで特色作ったわけですよ、昔から。それで地域に貢献してきたわけですよ。ああいう特色づくりみたいなものがあれば、県に対してこれでどうだって言えないかなあ。

町長：はい。一応その辺はですね、過去に開かれた会議で、案として出たは出たんですよ。観光系にしたらいいんじゃないかとか水産系にしたらいいんじゃないかとかっていう意見は出たんですよ。ただ、これに特化すると、普通の人が行かなくなるんですよ。土肥が普通があって、松崎は普通切るんだったらそれもありだよ。なんですけど、土肥もなくなると、松崎の普通がなくなって観光1本になると、それはそれで今度また、松崎に行かない理由が作られるんじゃないかとかね。いろいろなそういった御意見もあつたりですね。あと南伊豆分校は一応農業なんですけど、実際あそこを卒業した後に、農業関係する人がほとんどいないとか、だからあくまでも、本当にそこで、高校で、専門を特化する必要があるのかという

御意見もあってですね。その辺については、普通が1番万人が行きやすいだろうというところに落ちついたのかというような感じではありました。本当はですね、学力的に下高よりも松崎の方が上だったら、多分山越えてこっちに来るんですよ。でも逆ですから。今度逆を考えると、松崎の方が学力が高くなると、学力がない人は下田に行かなきゃいけないっていうデメリットもあるんで、何とも難しいですね。なので、その辺の落としどころで学力優秀者も松崎の校舎を使えば、サテライトで授業が受けられるんじゃないかっていうところから、サテライト制っていう話になって。今までと同じことをやっても時代が変わってますんで、うまく変化をさせればですね、いろんなチャレンジができるというふうには思うんですけど。なかなか、踏み込めないというか、チャレンジすることの中身をよく理解しない人たちが議論していると話は前に進まないもので。

教育長：今町長が言った普通科とか水産科とか、保護者のアンケートの中では、やはり普通科っていうのが多かったんですね。やっぱり中学卒業する時点で、その子が将来どういう職業に就くかっていうのを決めるってのはなかなか本当に、特別な思いがある子に限ります。今年も、西伊豆中から田農の方に牛の世話をしたいからということで行った子もいますけど、そういう仕事をやりたいんだっていう、持てる子はそういう農業科とかね、そういうところでいいんだろうけども、多くのほとんどの子はまだ、中学卒業段階では、職業が絞り切れていない。そういう中でやはり普通科っていうところを希望する生徒が多いのかなと思います。今松崎高校は、科ではないですけど、何年か前から美術コースを作ってますね、教師も彫刻専門の教師ともう1人非常勤の形で2人いると思いますけども、そういうので、技術的なものを勉強するっていう生徒なんかもあります。それと今、松崎高校頑張ってくれていまして、進学面でも頑張ってくれてるのが、本来は、2クラス分しか県から教員が配置されていないんだけども、校内努力で先生方が3クラスに分けてるんですね。ですから今、普段の時、ちょっと職員室行ったりすると、本来なら高校だと職員室に何人も先生がいるのは普通の高校なんだけど、松崎高校の場合は職員室はほとんど空っぽの状態だそうです。先生たちが、ほかの学校よりも多くの時数持って、子供たちを丁寧にかけている。それとか、あとは朝ですね、進学したいという子については、7時半からだったかな。朝の授業をやって来てますね。進学を目指してる子たちについての指導とかも丁寧にやってくれています。ある保護者が言ったのが、どここの大学へ行きたい。国立へ行きたいとかって言えば、松崎高校だと、そのために、どういうふうに、どういう学校があるかと事細かく調べてくれたり、そういう対応はしてくれていると。進学校なんかだと、どここの大学へ行きたいって言ったら、頑張っただけで終わりという進路指導方法もあるようですけど、そういう点で大変丁寧な指導してくれている。そういうところがどんどんPR出来ていけばいいのかなと思います。またその辺もPRしながら、中学の進路指導なんかでもやってもらって、いろいろな長所をですね、出していってもらうのがいいのかな。と思っています。またそんなふうにこれからも中学の方で進路指導頑張ってもらいたいと思います。

高橋委員：下田高校は進学校じゃないからね。新人の先生たちが、1年生がいっぱい来てる

んだよね。

町 長：ただOBの方のマインドは、まだ進学校のマインドですからね。

高橋委員：僕もOBだ。だけどね、今の下田高校は、一時期評議員みたいなのがあったけど、やっぱり特進クラスだけですもんね下田高校でいいのは。ただ専門学校とかみんな行っちゃうから進学率はいんでしょうけど。そこまで下田高校に魅力あるとは思わないんだよね。

町 長：ただやっぱりですね、子供たちの話を聞くと、下田は進学校ではないという状況があったとしても、松崎の中にいると、やっぱり引っ張られるらしいんですよ、下の方に。みんなわざわざ遊んでるのに、少人数だけ勉強していると、どうしてもそっちの方へふらふらっと。下田に行くと若干その辺の比率が多いから、まだ授業とか学ぶ意欲っていうのはあるみたいなんですけど。

高橋委員：授業においてかれちゃいますからね。下田高校ね。ちゃんとやらないと。

町 長：まあなかなか難しい教育現場ではありますけれど、また、本当に何かございましたら、この場のみならずごつくばらんに御意見を賜ればと思います。後は、特にその他で何かありますでしょうか。それではないようなので、進行につきましては、事務局の方に戻しますのでよろしく申し上げます。

事務局長：はい。ありがとうございました。以上をもちまして令和5年度第1回の西伊豆町総合教育会議を閉会といたします。本日はありがとうございました。